

# 園だより

## 3月号

令和4年2月28日  
新宿区立西戸山幼稚園  
園長 佐藤 淳穂



### 楽しさが受け継がれるとき

園長 佐藤 淳穂

いちご組に流行のデリバリーの配達が来ました。5歳児すみれ組の店員さんが段ボール製の四角いバッグを背中から下ろすと、注文した3歳児Aさんのワクワクは最高潮に達しました。店員さんはバッグの中から大事そうにラーメンを取り出しました。コンビニに並んでいるようなプラスチック製の器には程よい太さの毛糸の麺が大盛りで入っています。なるとやチャーシューもあります。店員さんはラーメンをAさんに手渡すと、次にバッグの底に手を入れ、ごそごそと割り箸を探して差し出しました。Aさんは両手でしっかり器を持って部屋の奥へ行きました。汁がこぼれないように慎重に歩いているように見えました。(汁は入っていませんが。)

奥のソファでは、Bさんがラーメンをお気に入りのぬいぐるみのサルに食べさせようと準備をしていました。Bさんは朝一番でラーメン屋に行っていたのです。Aさんは、Bさんと同じテーブルに自分のラーメンを置きました。ラーメンが二つ並ぶとBさんはうれしくてソファの上で座ったままジャンプをし、すぐに立ち上がりました。そして、クマのぬいぐるみを持ってきて、自分がサルにしているようにAさんのラーメンのそばに置きました。

次の瞬間、Aさんは「え？」と顔をしかめました。そして、せっかく持ってきてくれたクマを棚に戻しに行ったのです。「クマと半分こ」ではなく、一人でじっくり食べたかったのかもしれませんが。Bさんは「あれ、いらないの？」という表情でしたが、ぬいぐるみを拒否されたことはそれ以上気にしていない様子でした。持っているブロックを互いに見せ合ったり、ソファでピョンピョン跳ねたりして、二人はしばらくそこで過ごしていました。普段、この二人が一緒に遊んでいる姿はあまり見ないのですが、憧れのラーメンが二人をつないでくれたのでした。



この場面から、いかに年長組の存在が尊いかということがわかります。小さな偶然から出会った二人が、もっと楽しくしたいとあれこれやってみたり、互いの思いの違いに気付いたりしているプロセスの中に、たくさんの学びを見つけることができます。本物のように届けられたラーメンをめぐる遊びの楽しさが、この二人の育ちを支えています。3歳児にはとても作れない作品の巧みさやこだわりが、いつかは自分で作ってみたいと思わせてくれます。そして、幼稚園でしか味わえないラーメンを隣同士で「おいしいね」と食べることが、友達のつながりを育てているのです。

園庭のサクラソウが風に揺れて春を呼び込んでいます。with コロナの一年間でしたが、子どもたちは子どもの世界で3歳らしい、4歳らしい、5歳らしい生活を送り、いよいよ次のステップに上がります。園生活の中で楽しんだことが、これからの毎日を支えていくことでしょう。憧れの存在に「自分になる」という自信、「来年は君たちが」というエールを園内のあちこちから感じます。

一年間、温かいお励ましをいただきました保護者、地域、関係者の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。